

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
点字 Braille		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2階	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
視覚に障害のある人の基本的な文字である点字の知識や技能を習得し、視覚に障害のある人とのコミュニケーションについて学習する。また、指字を含めた盲ろう重複障害のある人とのコミュニケーション全般に関する知識も深める。点字の学習を通して、視覚に障害のある人の生活を支援するための技術へとつなげる。				
授業の目標				
①点字一覧を見ずに、点字を書くことができるようにする。 ②基本となる点訳の規則を覚え、文章および手紙を点訳できるようにする。 ③点字表記を凸面から読むことができるようにする。 ④点字の学習を通して、視覚に障害のある人の情報障害を説明できるようにする。 ⑤視覚に障害のある人のQOL（生活の質）を高める支援ができるようにする。				
授業の方法				
実技指導形式の授業である。例題や練習問題をもとに点字を書くことが中心となる。点訳の規則等は板書やパワーポイントを用いて講義するため、墨字（普通文字）でノートをとることもある。課題や小テストは添削後、返却（フィードバック）し、復習や今後の学習に活かせるようにする。				
学習の成果（学習成果）				
点字および点訳の基本的技術を習得することにより、点字の読み書きができ、視覚に障害のある人と円滑にコミュニケーションをとることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価の方法など）、点字器の貸出しおよび借用書の記入 標準点字盤の使い方、点筆の持ち方			
第2回目	五十音の学習①（五十音の基礎）			
第3回目	点字の歴史と理論（点字の考案・構成）、点字の特徴、五十音の学習②（簡単な単語うち）			
第4回目	濁音・半濁音・長音・促音の学習、簡単な文章の分かち書きと行替え・行移しの仕方 <小テスト①>			
第5回目	拗音・拗濁音・拗半濁音・句読点の学習とそれらを含む短文うち、点訳の規則および留意点			
第6回目	文章の点訳（基本となる文字を使った文章）、視覚障害のある人とのコミュニケーション			

第7回目	数字の学習と文章の点訳	
第8回目	囲み記号（カッコ類）の学習と文章の点訳 【レポート1：障害の理解に関する文章の点訳、提出は次回授業時】	
第9回目	各種記号の学習と短文うち	
第10回目	見出しの書き方、点字文法（分かち書き）の学習と文章の点訳	
第11回目	文章の点訳（基本となる文字や数字を含む文章） <小テスト②>	
第12回目	特殊音の学習と短文うち 【レポート2：障害のある人の支援に関する文章の点訳、提出は次回授業時】	
第13回目	手紙の書き方、点字郵便物の取り扱いと郵送方法、公文書の書き方	
第14回目	アルファベットの学習と墨点字による練習 凸面読みおよび日常生活におけるユニバーサルデザイン製品	
第15回目	指点字の学習、コミュニケーション福祉用具の知識（点字タイプライター・コンピューター点訳など） 視覚障害のある人の日常生活（福祉用具の活用と工夫） *点字器は終講試験後、返却する。	
事前・事後学習	授業での配布プリントを確認し、例題や練習問題を繰り返し点訳すること。点訳したものは添削または見直しをし、誤字等に気づくとよい。また、授業でわからなかった点は、各自調べたり、教員に質問したりすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	S評価は、①点字器と点字用紙を毎回準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③練習問題に積極的に取り組んでいる。④繰り返し練習に励んでいる。
レポート	20%	第8回目、第12回目に課題文の点訳を課す。S評価は、正しく、凸面から読みやすい点字が書けていること。点訳の規則に沿って適切な箇所に分かち書きをしていること。
調査報告書		
小テスト	30%	①第4回目(10%)：単語を点字で書く。指定した参照物のみ持ち込み可。 ②第11回目(20%)：墨字文章を分かち書きし、点訳する。試験範囲は第8回目までの学習内容。参照物等の持ち込みは不可。
試験	40%	墨字文章を分かち書きし、点訳する。標準点字盤を使用して手紙も作成する。参照物等の持ち込みは不可。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
必要に応じて資料を配布する。 【参考図書】 最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 第14巻「障害の理解」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算6年） 毎授業の積み重ねとなるため、繰り返し練習すること。指導上、座席を指定する場合がある。その際は指示に従うこと。携帯用点字器と点字用紙を購入する。（1500円程度、点字器を持っている学生は用紙のみ購入）購入に関する詳細は授業内で説明する。教材以外のものは机の上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		